

第1回 双葉町復興まちづくり委員会 議事概要

■日時：平成24年 7月19日(木) 午後1時30分～午後3時40分

■場所：双葉町役場埼玉支所 3階LL教室

■出席者：別紙座席表のとおり

■議事概要

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 町長あいさつ
4. 事務局紹介
5. 双葉町復興まちづくり委員会設置要綱について

事務局から説明

6. 委員長並びに副委員長の選任について

委員長に、芝浦工業大学名誉教授・公益社団法人日本建築士会連合会会長 三井所清典委員、副委員長に、福島大学名誉教授 鈴木浩委員、双葉町教育委員会委員長 岡村隆夫委員を選任

7. 議 事

- ①「復興への道(案)」に関するパブリックコメント集計結果について

「復興への道(案)」に関するパブリックコメント集計結果について、事務局から説明後、質疑。委員の主な意見は、以下のとおり。

- 「復興への道(案)」のパブリックコメントの回答者に小学生以下が入っておらず、中高生の回答率も低い。子どもの考えも集めるべきではないか。
- 「復興への道(案)」への回答率が17.2%では参考にならないのではないかと。広く町民の意見を取り入れた調査を示してほしい。
- アンケートは適切に行うべき。前回のアンケートは小学生以下が対象外であり、中高生へのアンケートも成長度合いに考慮したアンケートではなかった。若い世代の事を考慮しないと10代、20代は町に住んでくれない。
- 仮の町を作ってほしいとの要望は多くあると思うが、すでに各地で生活を始められ、戻りたくても戻れない人も出てくると思う。そのような人たちをどのように考慮するかは課題である。
- 「復興への道(案)」の結果は、昨年12月の結果であるから、現在どうなっているか知ることが必要なのではないかと。

- ②復興まちづくり計画について

資料について、事務局から説明

- ③意見交換について

委員の主な意見は以下のとおり。

- 双葉町に新興住宅地を開発したときにも大きな問題が数多く出てきた。大きな仮

の町を作るとしたら、我々では想像ができない大きな問題がでてくるのではないか。

- 仮の町は大きな町を一カ所につくるのか、コンパクトな街を複数の場所につくるのかも委員会での検討事項となるのではないか。資料からは、大きな町を作るようにしか見えないが、コンパクトな街を複数個つくった方が良いのではないか。
- 住民から様々な案がでて、双葉町は多額の借金を抱えている中で、町の事業として実現することはできないのではないか。
- 町での生活や子育てに対する理念がないかぎり、仮の町をつくっても住もうという人はごく一部になってしまうのではないか。
- 町民からの意見を聞くためには、会議の周知方法と意見の収集方法を徹底しないと無理ではないか。
- 若者も立場、考えは多種多様である。仮の町に誰が戻ってくるのかを考えないと仮の町は理想論になってしまう。
- 仮の町構想をゼロから創ることに違和感がある。双葉町にあった歴史、文化などを基にコミュニティを創り上げるべきではないか。
- 双葉町に戻れるかどうかわからないので、そこを決めてから仮の町の話を進めるべきではないのか。
- 時限的まちづくりとして考えるべきか、長期的なまちづくりとすべきか。
- 人類史にない新しいコミュニティを創れるのか、仮の町がどのような形となるのか次回以降の会議に期待したい。
- 他の双葉郡の状況はどうなっているのか。双葉町が遅れている現状を認識しているか。

- 部会を作る検討をした方が良いのではないか。細かい話題は部会で話を進めた方がよいのではないか。
- 委員会のスムーズな進行のためにも、委員がどのような考えを持っているか書面で集約してはどうか。
- 委員会に当たっては、会議の内容や決定事項をあらかじめ示してほしい。資料があるのであれば、事前に配布すべき。
- アンケートをすれば、設問はできるだけ簡単な内容にすべき。